

三菱UFJ国際投信

どんなときもプラスを目指す

百戦錬磨の 名人ファンド

- 本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。投資信託をご購入の場合は、当社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

お申込・設定・運用…三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第404号

加入協会：一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会

三菱UFJ国際投信

「百戦錬磨の名人ファンド」

3つの提供価値

投資を通じて資産形成に取り組むみなさまと、
“資産を増やす”という絶対目標を共有し、
運用会社だからこそできる答えをご用意いたしました



- 1 無理をしない運用方針** ～資産を増やすこと・大きく減らさないことの両立～
料理の世界にも和・洋・中など種類があるように、運用にも様々な種類があります。多くのお客さまへのインタビューを通じて、資産形成を着実に進めたいお客さまからは、中長期で資産成長が期待でき、資産形成の過程で大きな値下がりが発生しにくい運用手法の要望を数多くいただきました。そこで、市場全体の値動きに影響されにくく、どんなときもプラスを目指す、絶対収益追求型という運用方針を選定いたしました。
- 2 確かな実績を判断材料に** ～マザーファンドには16年超の運用実績～
運用の世界では、新たな投資アイデアが日々開発されており、シミュレーションでその有効性の検証が行われることはよくあります。しかしながら、その投資アイデアが商品として生き残れるかは、想定通りのパフォーマンスが実現できるか否か次第。つまり、長期間生き残っている商品の投資アイデアはお客さまにとって有益であったといえるのではないのでしょうか。「百戦錬磨の名人ファンド」が投資するマザーファンドには、16年を超える運用実績があります。
- 3 “資産成長”追求への責任** ～成果報酬の採用～
当ファンドはお客さまからお預かりした資産の着実な成長を目指しており、当社が当ファンドからいただく報酬は、パフォーマンスが実質的に過去最高となった場合に発生する成果報酬のみとなっています。つまり、ファンドの安定的な収益の獲得を目指すとともに、お客さまと同様に“資産成長”を追求する仕組みを導入しています。
※ファンドの費用については、P11をご覧ください。

運用担当者が語る百戦錬磨の名人ファンドの強み

16年超の運用で約50%のプラスリターンが証明する実力

お客さまへのインタビューからヒントを得て設定された新商品「百戦錬磨の名人ファンド」(以下、「百戦錬磨」)は、当社が2004年4月に設定した「日本株マーケットニュートラル・マザーファンド」(以下、「日本株MN」)への投資を通じて、お客さまからお預かりした資産の着実な成長を目指すファンドです。「日本株MN」の運用を長期にわたって担当するチーフファンドマネジャーの魚谷孝雄がファンドの強みやこれまでの経緯等について語りました。

—「日本株MN」の一番の強みは？

一番の強みとしてあげるならば、投資方針のシンプルさと柔軟さです。このファンドは日本株を投資対象とし、銘柄選択では相対的に魅力のある銘柄を買い、相対的に魅力のない銘柄を売るという極めてシンプルな方針を据えています。銘柄選択においては計量モデルを用いるのですが、そのチューニングには運用チームの裁量が働くため、結果的には柔軟な投資判断が可能です。

—シンプルさや柔軟さはなぜ重要なのですか？

シンプルさと柔軟さを兼ね備えた商品性である「日本株MN」は、投資対象にテーマや時価総額等の制限がなく、時々刻々と変化する情勢を踏まえて、市場全体から投資機会を探ることが出来るからです。投資は、予言や占いとは異なり、将来を当てることよりも、変化に対応して生き残ることの方が重要です。なぜなら、資金を市場に預けるリスクの対価としてリターンを得るので、市場から退場せずに市場に残ることこそが重要なのです。

—「日本株MN」には、16年超で約50%のプラスリターン実績があります。これは市場に残ったからこそ得られたリターンと考えてよいですか？

そう考えていただければ幸いです。市場に居続けることで、設定来の平均で年率約2%程度のリ

ターンを獲得した計算になります。もともと、機関投資家(プロ投資家)向けの商品として設定された商品で、厳しいプロの目に晒されながら、緊張感を持って運用し続けた結果だと自負しています。

—機関投資家はこのファンドをどのように利用していましたか？

2004年の設定来、一貫して余資運用としてのご利用です。余資運用とは、読んで字の如く余った資金の運用であり、預金しても金利のつかない状況下において、資金を寝かせておくよりも、低リスクの運用で換金性に優れている「日本株MN」での運用を選ばれていたようです。

—これから「百戦錬磨」を通じた投資を検討されているお客さまにメッセージをお願いします。

このたびは、数多あるファンドの中から「百戦錬磨」をご検討いただきありがとうございます。この

商品は、日本株の「買い」「売り」を組み合わせ、市場全体の値動きに左右されない安定的な収益の確保を目指すファンドです。値上がり益を狙い短期で大きく上昇するような商品性ではありませんので、時として退屈な商品とお感じになるかもしれませんが、日々投資機会をうかがい、安定的な収益獲得を目指すことをスタンスとしていますので、長い目でお付き合いいただければ幸いです。



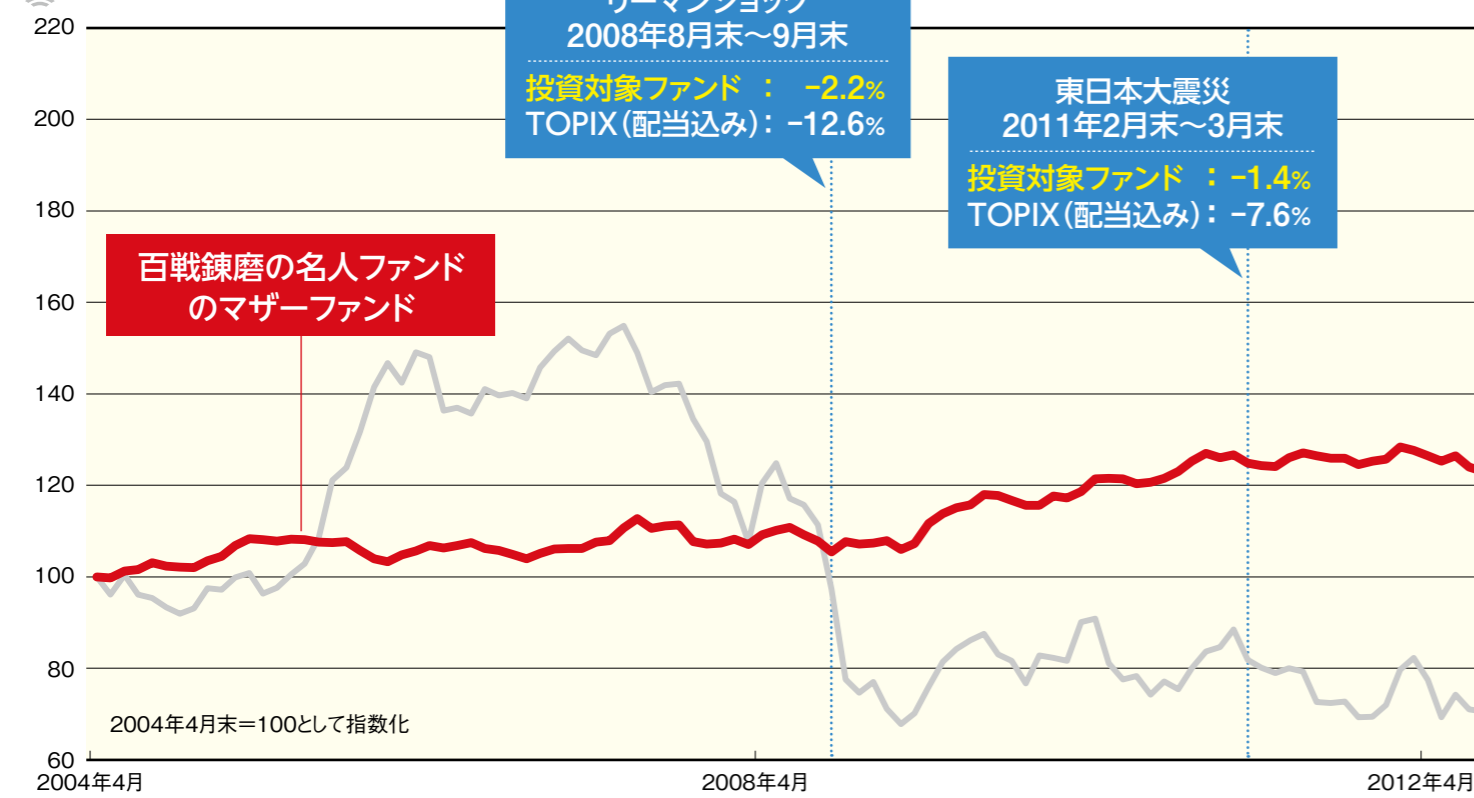
三菱UFJ国際投信
チーフファンドマネジャー
魚谷 孝雄

2001年UFJパートナーズ投信(現三菱UFJ国際投信)入社。運用経験年数は17年。国内株式のアクティブファンドマネジャーを経てクオンツ運用へ。アクティブ運用のマネジャー判断をデータドリブンのクオンツ運用に融合し、「百戦錬磨」の投資対象ファンド「日本株MN」を長期にわたって担当。

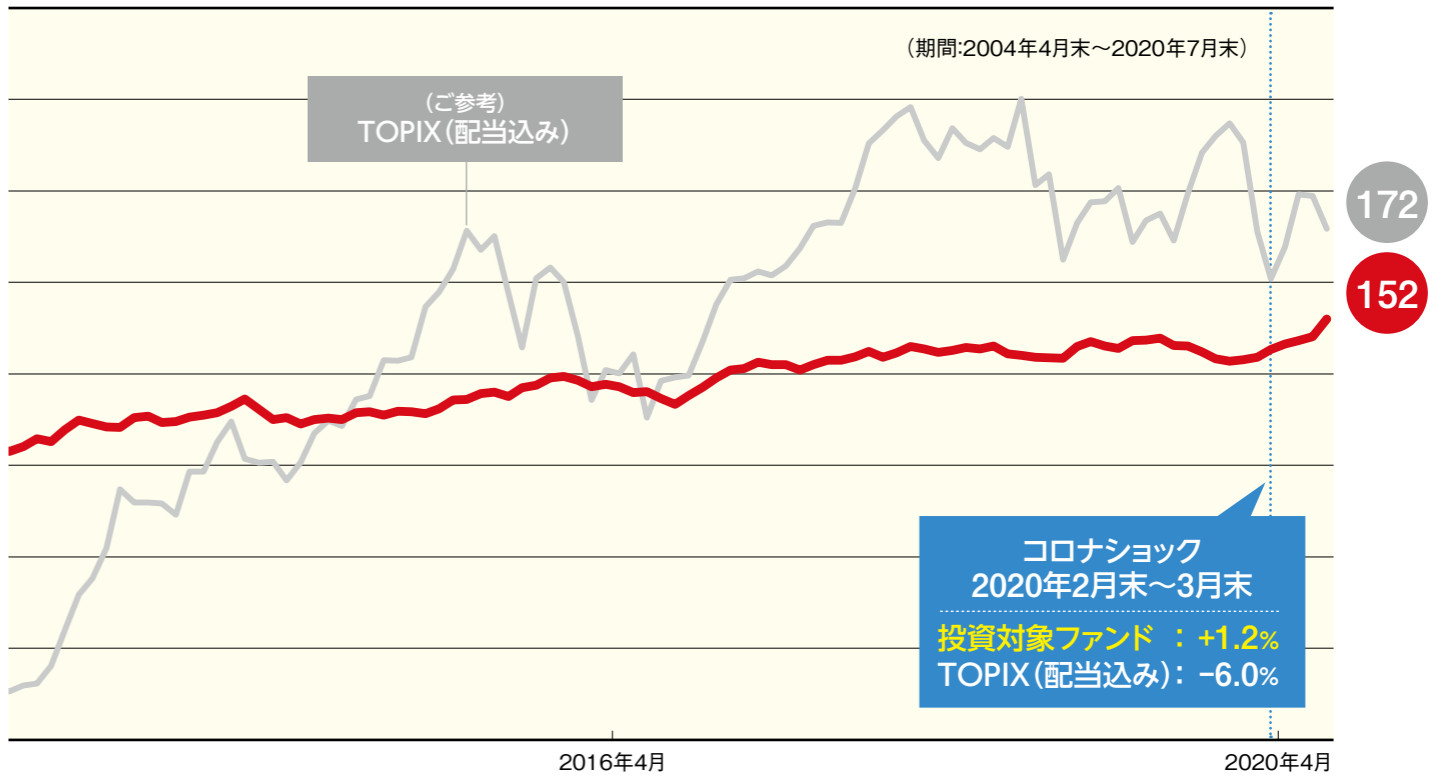
※上記は当ファンドが投資対象とするマザーファンド(日本株マーケットニュートラル・マザーファンド)の運用実績であり、当ファンドやマザーファンドの将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

データでみる百戦錬磨の名人ファンドのマザーファンド実績

16年にわたる運用実績



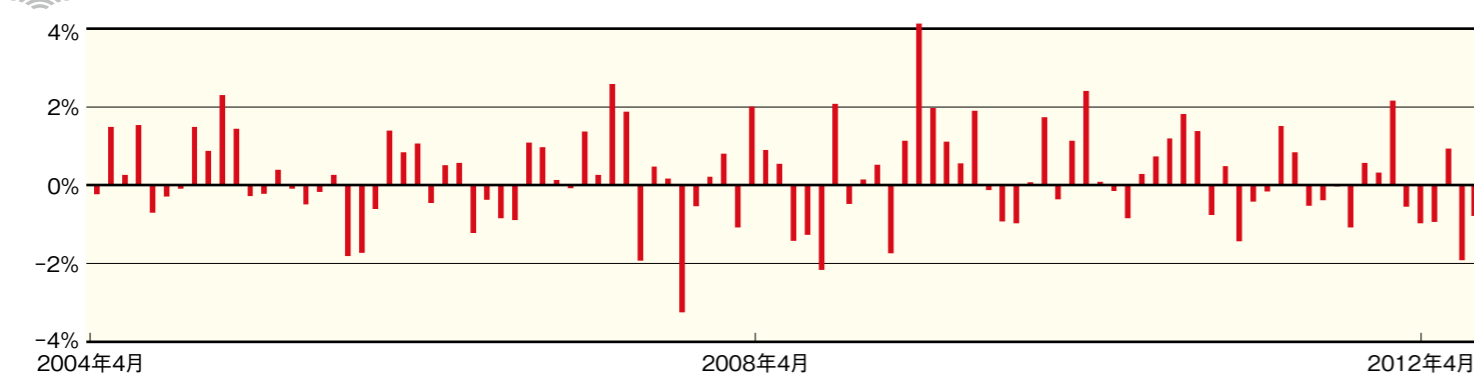
2004年4月の設定来、派手さはないものの、様々な局面を乗り越え、一歩ずつ着実にリターンを積み重ねてきました。



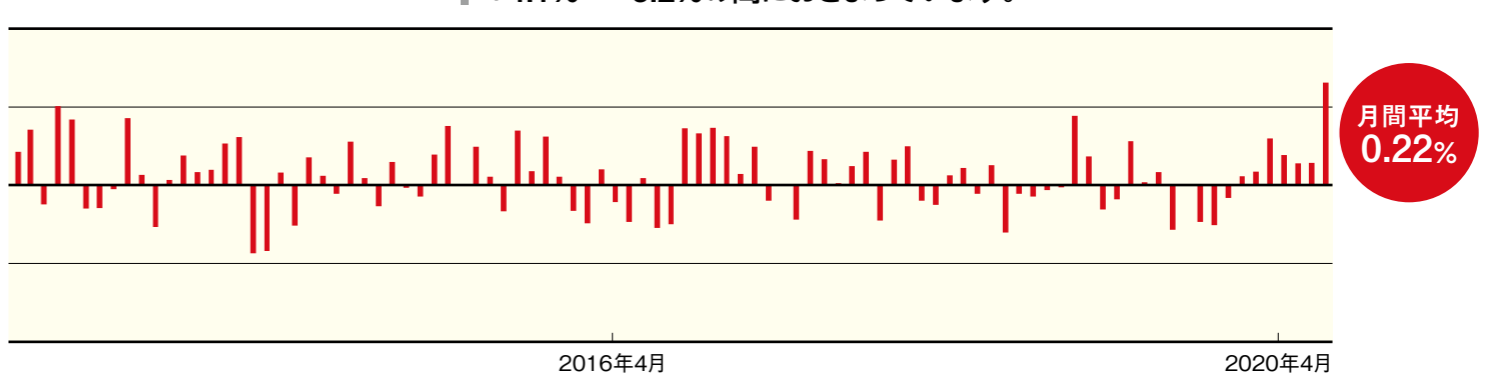
※TOPIXは当該ファンドの投資対象である日本株市場全体の動きを示すことを目的に掲載しています。東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に同指数に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。

月間騰落率



これまで16年間で、月間のプラス・マイナスの幅は+4.1%～-3.2%の間におさまっています。



データアラカルト

	百戦錬磨の名人ファンド のマザーファンド	(ご参考) TOPIX(配当込み)
プラスリターン回数 (月次)	112 / 195	112 / 195
リスク・リターン (年率換算)	リスク: 3.7% リターン: 2.6%	リスク: 17.5% リターン: 3.4%

リスクとは、リターン(収益)のブレ(変動)の大きさのことです。リスクは月次騰落率の標準偏差を年率換算したものです。リターンは月次騰落率の平均を年率換算したものです。計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。

上記は当ファンドが投資対象とするマザーファンド(日本株マーケットニュートラル・マザーファンド)の運用実績であり、当ファンドやマザーファンドの将来の運用

	百戦錬磨の名人ファンド のマザーファンド	(ご参考) TOPIX(配当込み)
上記期間において、最も下落率が大きくなった期間と下落率	(2007/7～2008/9) -6.4%	(2007/6～2009/2) -56.2%
上昇率・下落率が最も大きかった月と 上昇率・下落率	上昇 (2009/4) +4.1%	上昇 (2013/4) +12.6%
	下落 (2007/11) -3.2%	下落 (2008/10) -20.3%

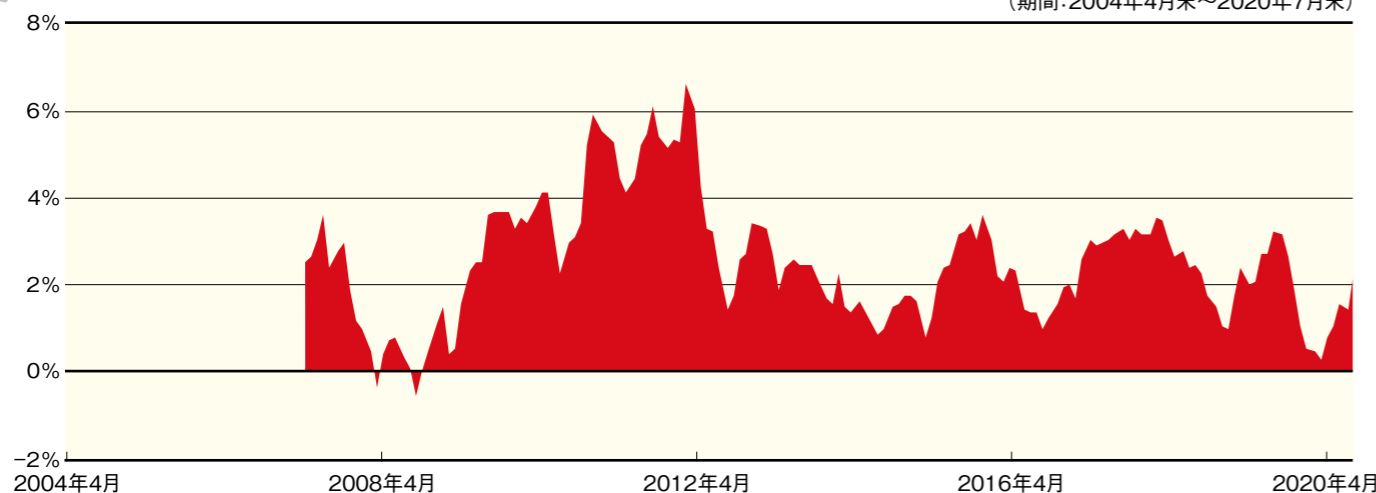
成果を示唆・保証するものではありません。

期間別の実績

過去実績では、百戦錬磨の名人ファンドのマザーファンドは安定的にパフォーマンスを積み上げてきたことで、期間が長い方がマイナスとなる割合が小さかったことがわかります。

期間3年リターンの推移

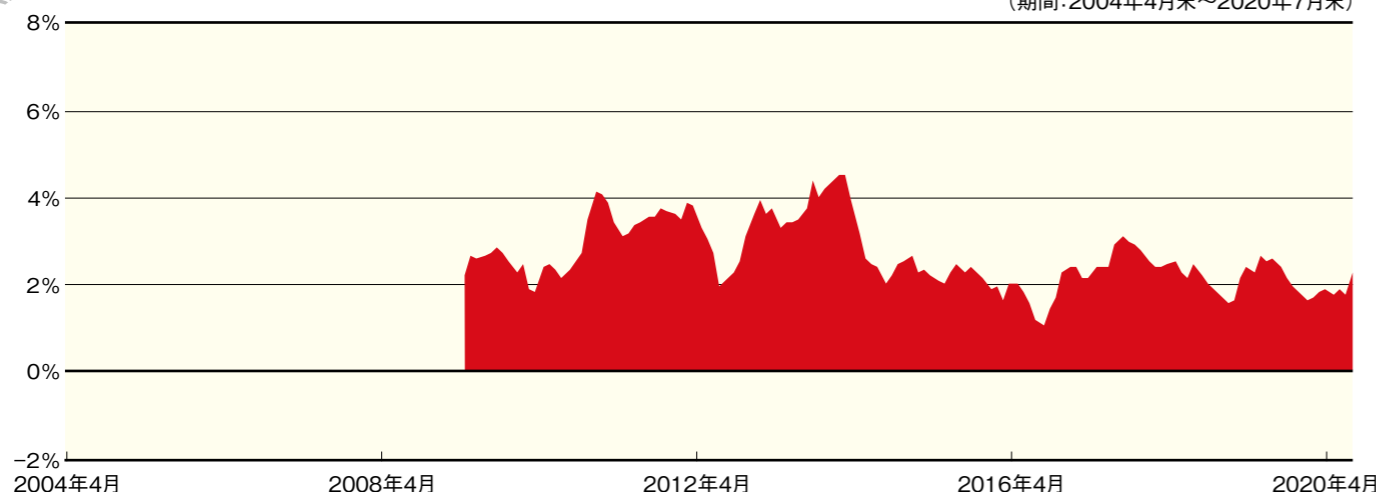
(期間:2004年4月末~2020年7月末)



	3年リターン平均 (年率換算)	リターンの プラス回数	リターンの マイナス回数	プラスになった 割合
百戦錬磨の名人ファンド のマザーファンド	2.5%	157回	3回	98.1%

期間5年リターンの推移

(期間:2004年4月末~2020年7月末)



	5年リターン平均 (年率換算)	リターンの プラス回数	リターンの マイナス回数	プラスになった 割合
百戦錬磨の名人ファンド のマザーファンド	2.6%	136回	0回	100%

上記は各月末における3年、5年リターン(年率換算)を表しています。例えば、期間5年における2020年7月のリターンは、2015年7月末~2020年7月末までのリターン(年率換算)を表しています。計測期間が異なる場合には、結果も異なる点にご注意ください。

上記は当ファンドが投資対象とするマザーファンド(日本株マーケットニュートラル・マザーファンド)の運用実績であり、当ファンドやマザーファンドの将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

百戦錬磨の名人ファンドの目的・特色

ファンドの 目的

日本の株式を実質的な主要投資対象とし、株式の信用取引等を組み合わせて、株式市場全体の値動きに左右されない安定的な収益を確保し、お預かりした資産の着実な成長をめざします。

特色 1

詳しくは→P8

日本の株式の「買い」と「売り」を組み合わせ、株式市場全体の値動きに左右されない安定的な収益の確保(絶対収益の追求)をめざします。

●株式の「買い」と「売り」*を組み合わせ、株式市場全体の価格変動リスクを低減させつつ、「買いポートフォリオ」における株式市場全体を上回る部分の収益と、「売りポートフォリオ」における株式市場全体を下回る部分の収益の確保をめざします。

* 当ファンドの「買い」は株式現物の買付け、「売り」は信用取引による株式の売建てを行います。
※このような運用戦略を一般的にはマーケットニュートラル戦略と呼びます。

・信用取引とは、資金や株式を借りて売買する取引です。ファンドは、証券会社に一定の保証金(委託保証金)を担保として差し入れ、売付けに必要な株式を証券会社から借りて売却を行います。なお、信用取引では、コストが掛かるほか制限が課せられる場合もあります。

※当ファンドは株式市場の全体の値動きに左右されない安定的な収益の確保(絶対収益の追求)をめざしますが、収益獲得の達成を保証等するものではありません。

※ 株式市場全体の価格変動リスクの低減が行えない場合や、「買いポートフォリオ」が株式市場全体を下回ることや、「売りポートフォリオ」が株式市場全体を上回ることによって損失を被る場合がありますので、ご注意ください。

特色 2

詳しくは→P8

ファンドの 特色

相対的に魅力のある銘柄を「買い」、相対的に魅力のない銘柄を「売る」投資戦略を用います。

●計量モデルを用いて個別銘柄の持つ期待リターンを測定し、相対的に魅力のある銘柄群を「買いポートフォリオ」、相対的に魅力のない銘柄群を「売りポートフォリオ」に分けて投資します。

特色 3

詳しくは→P9・P11

パフォーマンスが実質的に過去最高となった場合にかぎり、委託会社が受け取る信託報酬(成果報酬)が生じます。

●成果報酬*1は、成果報酬単価*2(成果報酬控除前基準価額が実質的な過去最高値*3を超えた額の15%)に受益権総口数をかけた額です。

*1 別途、相当する消費税等がかかります。

*2 成果報酬単価は1円単位のため、1円に満たない場合は成果報酬は発生しません。

*3 成果報酬の算出の基準となる価額です。

●基本報酬(受託会社が受け取る報酬)は、日々の純資産総額に対して、年率0.044%(税抜 年率0.04%)をかけた額です。

※日々の基準価額は信託報酬(基本報酬および成果報酬)や経費が反映された後の価額です。したがって、成果報酬の支払い時(毎計算期末または信託終了時)や一部解約時に成果報酬が基準価額から差し引かれるものではありません。

※ 成果報酬は発生日の基準価額に計上されるため、翌営業日以降、基準価額が下落しても、繰り戻されることはありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

ファンドの しくみ

ファミリーファンド方式により運用を行います。

ファミリーファンド方式とは、受益者から投資された資金をまとめた投資信託をベビーファンドとし、その資金の全部または一部をマザーファンドに投資して、マザーファンドにおいて実質的な運用を行う仕組みです。なお、当ファンドは日本株マーケットニュートラル・マザーファンドを通じて実質的な運用を行います。

分配方針

●年2回の決算時(2・8月の各24日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。

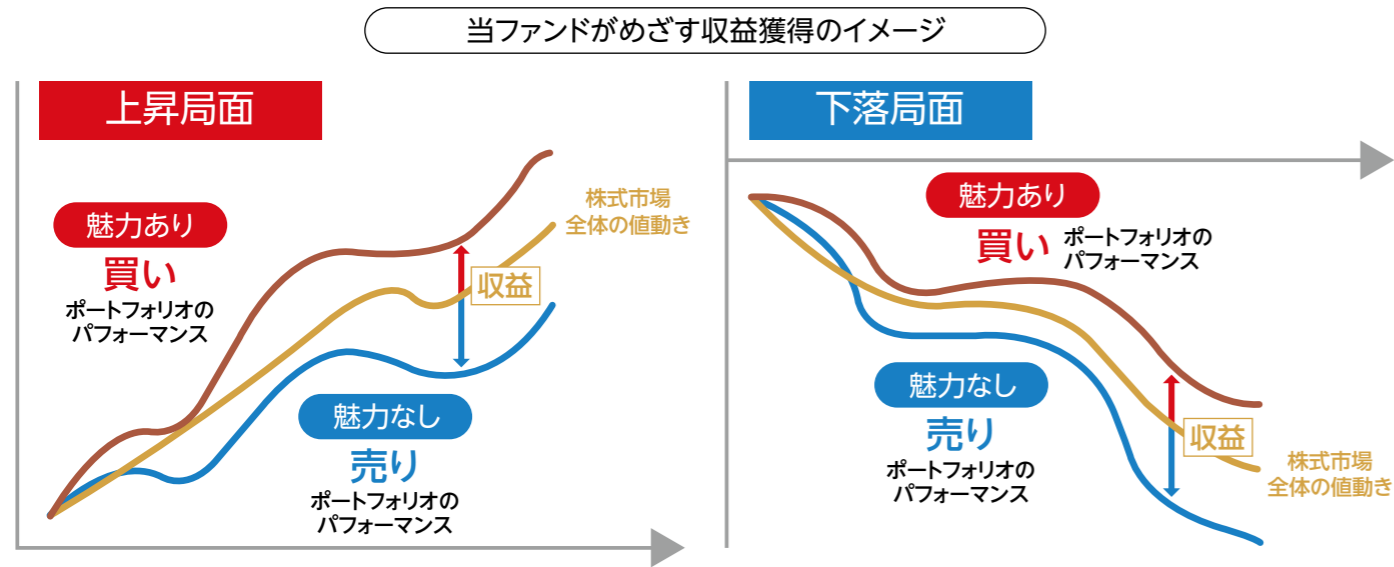
●分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

どんなときもプラスを目指す運用とは？

■日本株の「買い」と「売り」を組み合わせ、株式市場全体の値動きに左右されずに安定的な収益の獲得をめざす仕組みとは？

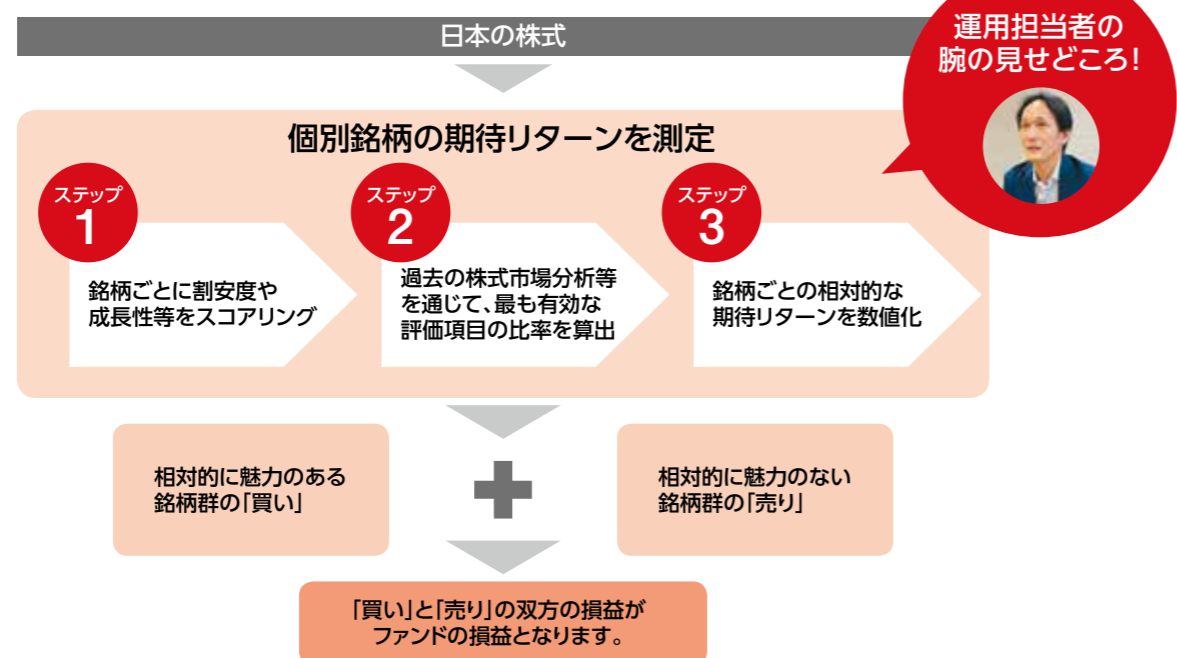


ファンドは「買いポートフォリオ」が市場全体を上回る部分と「売りポートフォリオ」が市場を下回る部分の利益の獲得を目指しています。ただし、ファンドの収益は理論的には「買いポートフォリオ」と「売りポートフォリオ」のパフォーマンスの差によって決まります。例えば、株式市場全体の値動きに関わらず、上記のように「買いポートフォリオのパフォーマンス」が「売りポートフォリオのパフォーマンス」を上回る場合には利益となりますが、逆の場合には損失となります。

「買い」「売り」を組み合わせ、株式市場全体の値動きの影響を小さくすることで、「株式市場全体の上昇に追随しない」というデメリットはありますが、「株式市場全体の下落の影響を受けない」というメリットを享受できます。

上記は当ファンドの値動きについて理解を深めていただくためのイメージであり、当ファンドの値動きについて示唆・保証するものではありません。

■ファンドの投資成果を左右する、「買い」銘柄、「売り」銘柄選定のプロセス



上記は銘柄選定の視点を示したものであり、すべてを網羅するものではありません。

また、実際にファンドで投資する銘柄の将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。上記プロセスは、今後変更されることがあります。

運用会社の報酬はお客様のパフォーマンスとともに

■成果報酬の採用

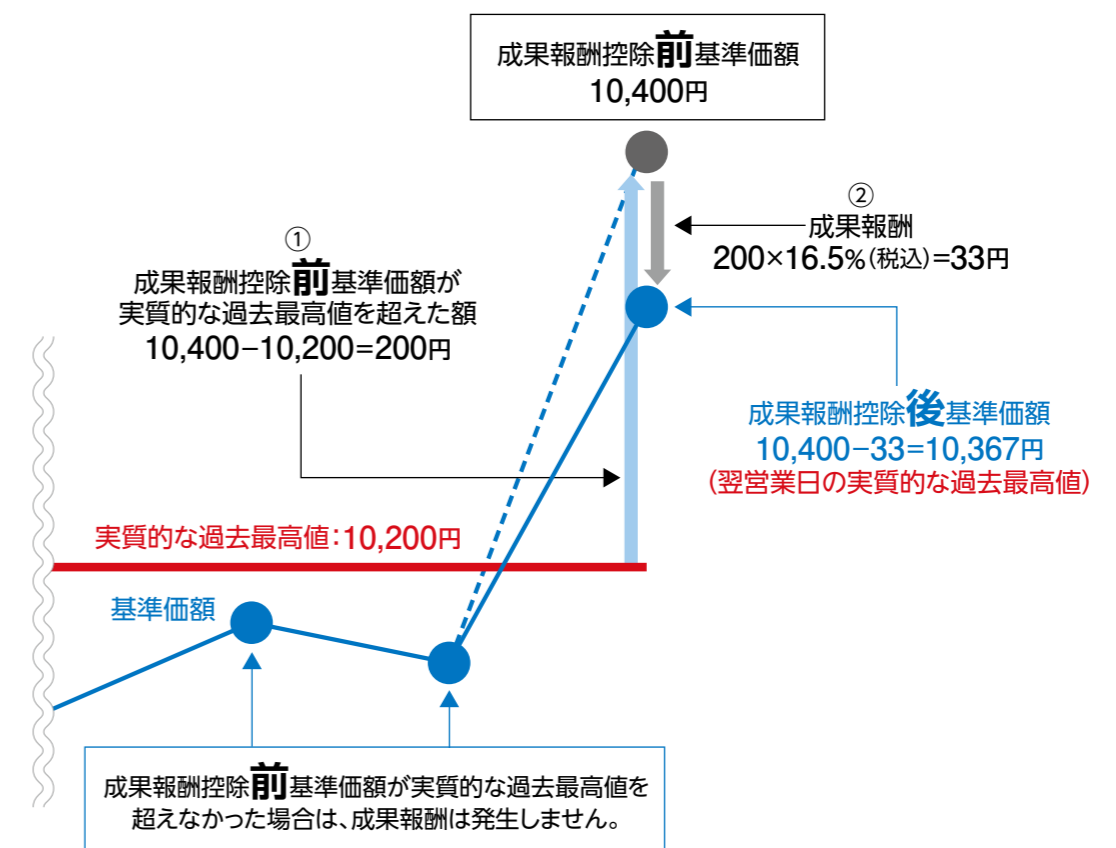
百戦錬磨の名人ファンドにおいて、運用会社である当社がお客様からいただく報酬は、実質的にパフォーマンスが最高値を更新した場合にいただく成果報酬(最高値更新分の15%(税抜))のみです。これにより、当ファンドを保有されているみなさまの利益が出ていない時には、当社に報酬を支払う必要がありません。また、直販での取扱いとなるため、販売会社に支払う報酬もありません。当社として、お客様と資産成長の喜びをともに分かち合いたいとの思いから、この報酬体系を採用いたしました。

(運用会社への報酬発生イメージ)

ファンドの運用成果		百戦錬磨の名人ファンド	基本報酬がかかる投資信託
パフォーマンスが上昇した時	実質的な過去最高値を更新した時	成果報酬発生	常に一定料率で発生
	それ以外	いただきません	
パフォーマンスが下落した時		いただきません	

※当ファンドの基本報酬(受託会社が受け取る報酬)は、日々の純資産総額に対して、年率0.044%(税抜年率0.04%)をかけた額です。

成果報酬の発生イメージ



上記は成果報酬の算出方法および発生イメージを表すため、便宜的に受益権総口数を1万口に固定したイメージ図となっています。将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

成果報酬*1は、成果報酬単価*2(成果報酬控除前基準価額が実質的な過去最高値*3を超えた額の15%)に受益権総口数をかけた額です。

*1 別途、相当する消費税等がかかります。

*2 成果報酬単価は1円単位のため、1円に満たない場合は成果報酬は発生しません。

*3 成果報酬の算出の基準となる価額です。

※ファンドの費用については、P11をご覧ください。

投資リスク

■ 基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの**運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します**。したがって、**投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります**。投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動リスク

株式の価格は、株式市場全体の動向のほか、発行企業の業績や業績に対する市場の見通しなどの影響を受けて変動します。組入株式の価格の下落は、基準価額の下落要因となります。また、ファンドでは信用取引を用いた株式の売建てを行います。売建てた株式が値上がりした場合には損失が発生し、基準価額が下落する要因となります。なお、信用取引を用いた株式を売建てた利益は限定される一方、損失は限定されていません。

「マーケットニュートラル戦略について」

ファンドは、実質的に日本の株式に投資する(ロング・ポジション)とともに、信用取引を用いた株式の売建て(ショート・ポジション)を組み合わせることで株式市場全体の変動の影響を抑え安定的な収益を確保することをめざすマーケットニュートラル戦略をとっているため、株式市場全体の上昇が必ずしも収益の要因となるわけではありません。なお、ロング・ポジションの「利益／損失」がショート・ポジションの「損失／利益」より「小さい／大きい」場合には損失が発生し、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。特に、ロング・ポジションの株価が下落する一方、ショート・ポジションの株価が上昇した場合には、基準価額が大幅に下落することがあります。

信用リスク

株式の発行企業の経営、財務状況が悪化したり、市場においてその懸念が高まった場合には、株式の価格が下落すること、配当金が減額あるいは支払いが停止されること、倒産等によりその価値がなくなること等があります。

流動性リスク

株式を売買しようとする際に、その株式の取引量が十分でない場合や規制等により取引が制限されている場合には、売買が成立しなかったり、十分な数量の売買が出来なかったり、ファンドの売買自体によって市場価格が動き、結果として不利な価格での取引となる場合があります。

上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

■ その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配金は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

■ リスクの管理体制

ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。また、定期的に関催されるリスク管理に関する会議体等において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。

ファンドの費用など

◎お客さまが直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	ありません。	換金時	信託財産留保額	ありません。
-----	--------	--------	-----	---------	--------

◎お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中

運用管理費用(信託報酬)の総額は①基本報酬と②成果報酬の合計となります。

①基本報酬

日々の純資産総額に対して、**年率0.044%(税抜 年率0.040%)**をかけた額

$$1万口あたりの基本報酬：保有期間中の平均基準価額 \times 信託報酬率 \times (保有日数 / 365)$$

*上記計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

基本報酬は、ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の発行等の役務の対価として受託会社に支払われます。

②成果報酬

毎営業日に、当該営業日の成果報酬控除前基準価額が「成果報酬の算出の基準となる価額(実質的な過去最高値)」を超過した場合に、その超過分に対して**16.5%(税抜15.0%)**の率をかけた額*に当該営業日における受益権総口数をかけた額です。

*超過分に対して税抜15%の率をかけた額(成果報酬単価)に1円未満の端数がある場合は、これを切捨てた額に消費税等がかかります。

- ・成果報酬控除前基準価額とは、成果報酬(税込)を控除する前の純資産総額を受益権総口数で除した金額です。ただし、収益の分配を行う場合は、成果報酬(税込)および収益分配金を控除する前の純資産総額を受益権総口数で除した金額です。
- ・成果報酬の算出の基準となる価額は、設定日においては1口1円です。
- ・設定日の翌営業日以降の成果報酬の算出の基準となる価額は、以下の通りとなります。

イ. 前営業日に成果報酬が発生しなかった場合

- a. 前営業日に収益の分配を行わなかった場合: 前営業日と同額
- b. 前営業日に収益の分配を行った場合: 前営業日の成果報酬の算出の基準となる価額から前営業日の収益分配金(1口当たり)を控除した額

ロ. 前営業日に成果報酬が発生した場合

- a. 前営業日に収益の分配を行わなかった場合: 前営業日の成果報酬控除前基準価額から前営業日の成果報酬単価およびそれに係る消費税等相当額を控除した額
- b. 前営業日に収益の分配を行った場合: 前営業日の成果報酬控除前基準価額から前営業日の成果報酬単価、それに係る消費税等相当額および前営業日の収益分配金(1口当たり)を控除した額

・成果報酬は、ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の役務の対価として委託会社に支払われます。

その他の費用・手数料

以下の費用・手数料についてもファンドが負担します。

- ・監査法人に支払われるファンドの監査費用
- ・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
- ・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
- ・その他信託事務の処理にかかる諸費用 等

*上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

【課税関係】

課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人投資者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)の適用対象です。

税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。